

## 医療・衛生

### モロの村の保健ボランティア組織強化と 技能向上研修の実施

(WE21 ジャパンみどり支援事業)

—ダンの心臓病悪化・武力衝突・水害—

問題山積ですが活動は続いています—

(PIHS ナブサさんの報告より)

4月24日:心臓病で緊急入院した保健ボランティアのダンが退院。入院費の70%は医療補助で残りは自己負担。薬代8000ペソはHANDSプロジェクト資金を一時使わせていただいた。医師は手術を勧めるが20万ペソ(約50万円)はかかる。当分服薬で様子を見ることとし、パリンバンの実家に戻りヘルスポスト運営に必要な組織強化のため精力的に働いている。

5月1日:パリンバンでの5日間の活動を終了。助産師ハムシア、ボランティア助産師サリファとともに男児24人に割礼を施し、胃腸疾患患者を診た。安全な水がないため私たちスタッフも皆お腹を壊す。

5月25日:今年度初めての月末定例保健ボランティア研修(4日間)終了。保健ボランティア13名が基礎知識の復習と鍼灸の実習を行った。

6月15日:パリンバンでの活動がまたできなくなった。イスラムゲリラがいるとの情報で政府軍の攻撃が始まり道路は封鎖されている。

6月19日:米高騰で、日中は保健ボランティアも母親たちも、さらには妊婦さえ村にその姿を見なくなった。検診・研修より日々の糧を求めるのに精一杯のようである。

6月23日:シギルでまた洪水被害が出た。12世帯が流され、32世帯が被災した。家を失った数世帯はヘルスポストに避難していて食糧不足が深刻だ。特に子どもたちがおなかをすかせている。州や中央政府に支援要請したが返事がない。一時的にHANDS事業資金を使わせてほしい。病気予防にハーブ薬は配布した。

良いニュースの一つ。ツヤンでターメリック(ウコン)が25kgもできた。今、それを粉末にしたものをカプセルに詰めて販売するのを手伝っている。もう3,000個できた。一個2ペソで売る。ハーブ薬の売り上げの8割はツヤンのボランティアに、2割はヘルスポスト運営経費に充てることになっている。

(その後、シギルの被災世帯数は最終的に61となり、HANDSからの追加送金で、6/26米8袋11,500ペソを購入したという報告を受けました。山崎)



6月水害では避難所になったシギルのヘルスポスト  
左から:心臓病のダン、ナブサ、土地提供者の妻ハニナ、  
ヘルスポスト管理人ボン (5/28 山崎・撮影)

### CMIPヘルス責任者ジョジョの月例報告より

今年も月額650ドル(医療自立支援会費46名分)で、助産師ジョジョと保健ボランティア・ヒルダの給与、巡回診療、入院・治療、医療衛生研修を支援しています。

4月:45名支援。風邪・肺炎10名。結核5名。クラオ巡回診療203名、歯科33名受診

5月:28名支援。風邪・肺炎10名。デング熱1名。グルンガ巡回診療183名、歯科33名受診。

6月:30名支援。風邪・肺炎11名。マラリアはゼロ更新中。デング熱2名。26-28日グルンガで研修。49名参加。7月はクラオで実施。

## 環境保全・農村開発

### クハンの原生林保護とアグロフォレストリー

(イオン環境財団助成事業)

5月末山腹のコーン畑にバナナの苗木が等高線状に並ぶクハン村を訪ねました。生育の早いバナナで日陰を作った後、接木済果樹苗を植えます。対象は15世帯15ヘクタール。「草の根人間の安全保障無償資金」で水道も建設。乾季の灌水が可能です。

### 苗木育成と栽培技術研修による

### ピラーンの村の収入向上事業

(WE21 ジャパンみどり支援事業)



事業対象3村の1つオロムラオ村の苗木育成(5/29 山崎撮影)。6月の「持続可能な農業」研修には21名が参加。うち5名が事業モニター担当に選ばれた。